

<p>★学校教育目標 ○すすんで学ぶ子 ○からだをきたえる子 ○思いやりのある子 ○最後までやりぬく子</p>		<p>★重点計画の概要</p>	
<p>★目指す学校像（ビジョン）</p> <p>【めざす児童・生徒像】 ①基礎的、基本的な知識及び技能を習得し、それらを活用して、自ら見出した課題を思考力、判断力、表現力を活かしながら課題解決をする児童。また対話や情報等を活用して、意欲的に学ぶ児童。②自らすすんで基本的な生活習慣を整える児童。健康の保持・増進や体力の向上に励む児童。③「いのち」の尊さ・素晴らしさを自覚し、自分も他人も、動物も植物も、そのいのちを大切に作る児童。④①～③の目標達成に向けて、努力をする児童。自分のいまやるべきことを自覚し、最後まで成し遂げる児童。</p> <p>【めざす学校像】 ○児童一人一人がいのちを大切に、可能性を伸ばしていく学校 ○教職員が向上心をもって学び、日々の教育実践に励む学校 ○保護者、地域が信頼をよせ、地域と共に歩む学校</p> <p>【めざす教師像】 ○児童一人一人を大切に、児童理解と指導力をすすんで学ぶ教師 ○児童や保護者、地域の思いや願いを受け止め、寄り添って考え、課題解決に取り組んでいく教師 ○組織（チーム仲田小）として協働する教師 ○新たな試みにチャレンジし、自己変革を続ける教師</p>		<p>『全てのいのちを大切に、一人一人の可能性を伸ばしていく学校』 仲田（な・か・だ）の取組 【確かな学力】なかよく学び合う力を育成します 【豊かな心・健やかな体】からだと心を育成します 【地域との連携】だい好きな仲田小の地域と共に歩みます</p>	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
いのち	○児童一人一人が、いのちの尊さや素晴らしさを感じ、考えを深め、自他のいのちを大切に作る児童を育てる教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「いのちの尊さ」を実感し、自他のいのちを大切にしようとする思いや考えをもつことができるようにする。</li> <li>●一人一人の児童理解に努め、児童の思いに寄り添い、児童のよりよい成長を目指す教育を実践する。</li> <li>●危機管理・安全指導計画に基づき、学校、地域における安全確保の徹底と児童自身の安全に関する意識の向上を図る。</li> </ul>	<p>○各学年の年間指導計画に基づき、行事、各教科等で計画的に「いのちの尊さ」を意識した取組を行い、目指す児童像を実現していく。</p> <p>○「特別の教科 道徳」の授業を年間計画に沿って意図的・計画的に実践し、考え、議論する道徳授業を通して、自立した人間として、他者とともによりよく生きるための道徳的実践力を養う。</p>	3	4 全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 95%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が90%未満だった。	3	4 95%の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 3 90%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 2 85%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 1 児童アンケートで肯定的な評価をした児童が85%未満だった。	<p>総合評価点3.7 ・命の尊さは一番大切なことである。自分を大切に他人を思いやる心は、幼い時から培われていくものだと思う。いじめにもつながっていくので、これからも道徳教育の中で子供たちには自分で考えながら学んでほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の決まりや約束を守って生活し、友達と協力しながら仲良く過ごしていること90%以上の児童が回答していることから、思いやりの心の育成を今後も続けていく。</li> <li>・いのちの安全教育を基に、児童一人一人の心情に寄り添う教育をこれからも推進していく。</li> </ul>
			<p>○ふれあい月間の取組や、いじめアンケート等を活用していじめの早期発見に努め、学校いじめ防止基本方針に基づき、スクールカウンセラーやSSW、巡回心理士等と連携しながら組織的に対応する。</p> <p>○避難訓練、安全指導、安全点検、通学路点検、交通安全教室、自転車安全教室、セーフティ教室、防犯教室、SOSの出し方教室、薬物乱用防止教室、情報モラル指導等を計画的に行い、安全管理と事故防止の徹底を図る。</p>	3	4 全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 95%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が90%未満だった。	3	4 95%の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 3 90%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 2 85%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 1 児童アンケートで肯定的な評価をした児童が85%未満だった。	<p>総合評価点3.7 ・心の健康、身体の健康を維持できているのだと思う。 ・思いが伝わらないことが多いと思うが、先生方が頑張っていること、努力を評価したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童は「いのちを守る」意識が高く、94%以上の肯定的回答があった。今後もいのちの大切さについて、継続した指導を行っていく。</li> <li>・いじめについては、児童からのサインを見落とさないようにし、早期発見・早期対応を徹底する。自他ともに思いやる心を大切にした教育活動を継続していく。</li> </ul>
学び	○確かな学力の定着と一人1台の端末を活用したGIGAスクール構想を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎的、基本的な知識・技能の習得と、自ら課題を見付け、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力の育成を図る。</li> <li>●「主体的・対話的で深い学び」を目指した学習指導の工夫を推進する。</li> </ul>	<p>○授業のねらいを明確にし、ねらいを達成していくために導入、発問、授業構成、教材準備、板書等に創意工夫を図る。</p> <p>○基礎的、基本的な知識・技能の定着のために、習熟の程度に応じた指導や補習学習、繰り返し学習等、児童の実態に応じた指導を行っている。</p> <p>○放課後補習教室「けやき教室」の活用を図り、確かな学力の定着を推進する。</p> <p>○各教科の「見方・考え方」を意識した学習を展開し、児童が自分の考えをもち、話し合い、深くあう、課題解決を意識した学習活動の充実を図る。</p>	3	4 全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 95%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が90%未満だった。	3	4 95%の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 3 90%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 2 85%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 1 児童アンケートで肯定的な評価をした児童が85%未満だった。	<p>総合評価点3.8 ・「けやき教室」の参加声掛けに協力してほしい。 ・一人一人の個々の能力を引き出すために、自分の考えを自分の言葉で伝えることがこれからは大切だと思う。 ・保護者はできない点にのみ着目してしまう傾向があるのではないだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度より「授業が分かる」と肯定的回答をした児童が約2ポイント低下した。基礎的基本的な知識の定着を目指し課題として取り組む必要がある。</li> <li>・放課後補習教室の活用を促し、できる楽しさや喜びを体得させる取組を向上させていく。</li> </ul>
			<p>○研究主題「地域をステージとした教育活動（生活科及び総合的な学習の時間で育む郷土愛）」に向けた研究を推進する。一人1台端末を活用した個別最適化学習を推進し、情報共有化や対話を取り入れた協働的な学びを推進し、授業改善を図る。</p> <p>○学習の基盤となる「言語能力」「端末を活用した情報活用能力」「問題発見・解決能力」等の資質・能力を育成するために、教科等横断的な学習の充実を図る。</p>	3	4 全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 95%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が90%未満だった。	3	4 95%の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 3 90%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 2 85%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 1 児童アンケートで肯定的な評価をした児童が85%未満だった。	<p>総合評価点3.8 ・児童一人一人の習熟の程度に応じた自己学習の持ち帰りなど、端末を活用して効果的に進めることもそろそろ導入できるのでは。保護者には良く出来ている点を重点に知らせ、褒めてあげるように常に伝えるのが、児童のやる気と家庭のストレス改善にもなるのではないかと感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童は「地域への愛着や理解について」、85%以上が肯定的回答であった。学習者用端末の活用だけでなく、地域のよさを知るために、地域をステージとして、自分の足で情報を集めることや地域の方とふれあい、話し、仲良くなることに意識が高くなっていると感じる。</li> </ul>
地域	○学校、家庭、地域社会が協働し、地域とともに創る教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の自然環境や学校支援ボランティア、専門家等の人材を活用しながら豊かな体験活動を実践し、児童が実感的に学習する学びを創意工夫する。</li> <li>●家庭や地域の学校に対する多様な思いや願いを受け止め、学校教育の充実、改善を図る。</li> <li>●児童が地域に出て、地域の方々と活動することを通して、自己有用感を感じたり、地域で様々なことを感じ、自分の生き方を考えたりしているようにする。</li> </ul>	<p>○児童が豊かな学びを体験できるように、各学年、各教科等の年間指導計画等に基づき、外部専門家や学習支援ボランティア等を積極的に活用した教育活動を企画し、推進する。</p> <p>○児童が学ぶ楽しさ、おもしろさを実感できる体験学習等を取り入れ、地域の自然環境やボランティア、専門家等の人材活用を図り、創意工夫した授業実践を行う。</p>	3	4 全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 95%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が90%未満だった。	2	4 95%の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 3 90%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 2 85%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 1 児童アンケートで肯定的な評価をした児童が85%未満だった。	<p>総合評価点4.0 ・食育の授業など、普段、家庭ではできない体験はいいものである。 ・学校支援ボランティアで、地域のお店まわりも同行した。お店の方との交流など学習へ生かす段階だが、支援ボランティアがいるからいろいろな場所へ子供たちが分散して行けるんだと感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とともに創る教育を充実させるために、学校支援ボランティアの力を借りて、様々な取組を行ってきた。どれも児童の活動には不可欠であり、その成果として、地域が好きである（または、好きになった）と約85%の児童が回答した。</li> </ul>
			<p>○開かれた学校づくりを一層推進するため、学校の教育方針や実践活動、お知らせを学校便りや学年便り等でまとめ、Home &amp; Schoolやホームページで発信する。</p> <p>○児童が地域やPTAのボランティア活動に参加する経験を通して、自己有用感を感じることができるようにする。</p> <p>○児童が地域の人とともに活動することで、社会性や地域に対する郷土愛を育む。「蚕の飼育体験」「桑の枝の皮を使った紙漉き体験」等に取り組む。</p>	3	4 全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 95%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が90%未満だった。	2	4 95%の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 3 90%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 2 85%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 1 児童アンケートで肯定的な評価をした児童が85%未満だった。	<p>総合評価点4.0 ・保護者や地域の方が協力しやすい学校づくりをしてもらい、ボランティアに参加しやすい雰囲気がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域協力を促す取組として、メール配信による保護者や地域への依頼や、PTAと連携して様々な情報を提供することで、少しずつ活性化を図ることができてきている。</li> </ul>
健康・体力	○からだを鍛え、たくましく生きるための健康・安全や体力の向上を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オリ・パラレガシー教育を推進し、体育授業の充実を図る。</li> <li>●自らすすんで健康の増進と体力・運動能力の向上に努め、生涯を通して運動やスポーツに親しむ態度を養う。</li> </ul>	<p>○意図的に多様な運動を一定期間重点化し、持久走ウィーク、縄跳びウィーク、アクティブタイム等、日頃から児童が運動に親しむ機会を設定し、日常的に運動に親しみ、体力向上及び健康増進を図る。</p> <p>○家庭や地域と連携して、望ましい食習慣や基本的な生活習慣の確立、創意工夫を凝らした食育の充実を図り、生涯にわたる健康づくりの基礎をつくる。</p>	3	4 全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 95%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が90%未満だった。	3	4 95%の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 3 90%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 2 85%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 1 児童アンケートで肯定的な評価をした児童が85%未満だった。	<p>総合評価点3.8 ・児童が健康的なライフスタイルを身に付けるためには、体力作りや食育にコミュニケーション作りを加えることで、さらに効果が高まるのではないかと、児童が自分の気持ちを表現しやすい環境を作ることが重要だと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の肯定的回答が昨年度より約5ポイント上昇した。特に高学年の肯定回答率が上がった。</li> <li>・体を動かすことの楽しさや心地よさを伝える（または感じる）取組を改善していく必要がある。</li> <li>・食育の分野では、残菜量が減少し、望ましい傾向にある。</li> </ul>
			<p>○支援委員会等の組織的な校内体制の充実、ステップ教室やリソースルームの活用、関係諸機関との連携、就学支援シート、かしのきシートの活用を図っていく。</p> <p>○授業のユニバーサルデザイン化と日野スタンダードを基盤にした授業を実践する。</p>	3	4 全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 95%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が90%未満だった。	3	4 95%の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 3 90%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 2 85%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 1 児童アンケートで肯定的な評価をした児童が85%未満だった。	<p>総合評価点3.8 ・先生方が日頃から児童のことについて情報共有し、適した対応を話し合っていることは素晴らしいことだと思う。 ・多様な人を理解し受け入れるには一定のトレーニングが必要ではないかと。多様性を理解し、共に歩むとはどのようなことが求められているのか、また理解した先に何かがあるのかなど、身近な友達に対して具体的な行動が伴うことで、受け入れたことになると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が児童一人一人がもつ個性と向き合い、情報を共有し、理解を進めながら取り組んでいる。児童も自らが大切にされていると約93%が肯定的回答であった。今後は、残りの7%の児童に対し、さらに真摯に向き合っていく必要がある。</li> </ul>
特別支援	○多様な他者を受け入れ、一人一人に寄り添う特別支援教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童の教育的ニーズに応じたきめ細やかな特別支援教育の充実を図る。</li> <li>●全ての児童が参加し、分かる喜びを実感できる授業の創造に努める。</li> </ul>	<p>○支援委員会等の組織的な校内体制の充実、ステップ教室やリソースルームの活用、関係諸機関との連携、就学支援シート、かしのきシートの活用を図っていく。</p> <p>○授業のユニバーサルデザイン化と日野スタンダードを基盤にした授業を実践する。</p>	3	4 全ての教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 95%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が90%未満だった。	3	4 95%の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 3 90%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 2 85%以上の児童が、児童アンケートで肯定的な評価をした。 1 児童アンケートで肯定的な評価をした児童が85%未満だった。	<p>総合評価点3.8 ・先生方が日頃から児童のことについて情報共有し、適した対応を話し合っていることは素晴らしいことだと思う。 ・多様な人を理解し受け入れるには一定のトレーニングが必要ではないかと。多様性を理解し、共に歩むとはどのようなことが求められているのか、また理解した先に何かがあるのかなど、身近な友達に対して具体的な行動が伴うことで、受け入れたことになると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が児童一人一人がもつ個性と向き合い、情報を共有し、理解を進めながら取り組んでいる。児童も自らが大切にされていると約93%が肯定的回答であった。今後は、残りの7%の児童に対し、さらに真摯に向き合っていく必要がある。</li> </ul>

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。